H30．3

平成２９年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	１０月	１１月	１２月	１月	2月	3月
委員会		第１回 5/11							第2回 12/14			第3回 3/15
委員による意見交換会	別海地区 4/19		湧別地区 →		8/22	岩見沢市 北村豊正 地区 9月28日		七飯地区 →			2/20	
指導員関連事業	Web版 里づくり （毎月）	第1回 幹事会 (札幌) 5/24		情報誌 里づくり １５号 道東ﾌﾞﾛｯｸ (根室) 7/24～25	8/3 道北ﾌﾞﾛｯｸ (留萌) 8/1～2	地域づくり研修会 (札幌) 9/5	現地研修 (檜山) 10/18 ～19	道央ﾌﾞﾛｯｸ （日高） 11/7～8 道南ﾌﾞﾛｯｸ (渡島) 11/15 ～16	12/12 ～13	第２回 幹事会 (札幌) 1/23午前 指導員会 (札幌) 1/23午後	全国研修 (東京) 情報誌 里づくり １６号 2/28	
その他									農水省ふる水基金全国担当者会議 12/26			

平成２９年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業実績

１　地域活動支援事業
（１）実践活動地区（４地区）
　　湧別町湧別地区、別海町別海地区、七飯町七飯地区、岩見沢市北村豊正地区
（２）住民意識醸成地区（１地区）
　　根室市厚床地区

２　研修事業
（１）北海道ふるさと・水と土指導員　６４名（平成３０年３月１５日現在）新規６名委嘱
（２）ふるさと水と土基金全国研修会　６名（うち指導員５名）
・日程：平成２９年１２月１２～１３日
・場所：東京都渋谷区代々木　国立オリンピック記念青少年総合センター
・内容：講演『人口減少という「静かなる有事」戦略的に縮もう！』
産経新聞社　論説委員　河合雅司氏
「田園回帰の時代　～地元に人と仕事を取り戻す～」
(一社)持続可能な地域社会総合研究所　所長　藤山浩氏
活動紹介「特産・伝統を活かす事業で地域を活性化」
富山県氷見市 NPO 法人速川活性化協議会　澤田典久氏
他
（３）地域づくり研修会　７４名（うち指導員２３名）
・日程：平成２９年９月５日
・場所：札幌全日空ホテル２３階　白樺の間
・内容：基調講演　「タイ人から見た農村観光の魅力」　プーワナット・スパープクン氏
パネルディスカッション　「農村の魅力と観光需要を結びつけるためには」
コーディネーター　北海道大学大学院農学研究院　准教授　小林国之氏
パネリスト　合同会社 STAYLINK 旅行ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　プーワナット・スパープクン氏
(有)緑友会六輪村　代表取締役　東寺百合子氏
(株)いただきますカンパニー　代表取締役　井田芙美子氏
（４）現地研修　２５名（うち指導員１５名）
・日程：平成２９年１０月１８～１９日
・場所：八雲町、江差町、厚沢部町
・内容：味菜工房（八雲町）、いにしえ街道、えさし美土里の会（江差町）、厚沢部町河川　資源保護振興会（厚沢部町）
（５）北海道ふるさと・水と土指導員会　４６名（うち指導員２９名）
・日程：平成３０年１月２３日
・場所：北農健保会館　会議室エルム
・内容：講演　「北海道の地域活動に関する考察－わが村は美しく北海道運動受賞地区からみる活動の特徴－」北海道大学大学院農学研究院　講師　山本忠男氏
活動紹介　田中いずみ指導員（七飯町）
意見交換・グループ討議　総括：山本忠男座長
（６）北海道ふるさと・水と土指導員会幹事会
・日程：平成２９年５月２４日、平成３０年１月２３日
・場所：道庁内会議室
・内容：「里づくり」、ブロック別ミーティング、地域づくり研修会の企画　他
（７）ブロック別ミーティング
①　道東ブロック　平成 29 年 7 月 24～25 日　根室市、厚岸町　24 名（うち指導員 15 名）
②　道北ブロック　平成 28 年 8 月 1～ 2 日　南富良野町　18 名（うち指導員　9 名）
③　道央ブロック　平成 28 年 8 月 24～25 日　喜茂別町　16 名（うち指導員　8 名）
④　道南ブロック　平成 28 年 11 月 10～11 日　八雲町　18 名（うち指導員 9 名）
（８）情報誌「里づくり」の発行　２回（８月、２月）
（９）web 版「里づくり」の配信　毎月

３　推進事業

（１）委員会の開催　３回（５月２４日、１２月１４日、３月１５日）

（２）活動地区との意見交換

別海地区（4/19）、七飯地区（2/20）、岩見沢市北村豊正地区（9/18）、湧別地区（8/22）

（３）ホームページの更新

①　指導員プロフィール

②　事業紹介、委員会記録及び活動実績等の情報

（４）啓発普及

「新・田舎人」（96～99 号）の配布

H30.3

平成30年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会		第1回							第2回			第3回
委員による意見交換会	別海地区					岩見沢市 北村豊正 地区					七飯地区	
指導員関連事業	Web版 里づくり （毎月）	第1回 幹事会 (札幌) 5/23		情報誌 里づくり 17号 道東ﾌﾞﾛｯｸ （　　）	道北ﾌﾞﾛｯｸ （　　）	地域づくり研修会 (札幌)	現地研修 (道央) 10/16 ～17	道央ﾌﾞﾛｯｸ （　　） 道南ﾌﾞﾛｯｸ （　　）	全国研修 （東京）	第2回 幹事会 (札幌) 指導員会 (札幌)	情報誌 里づくり 18号	
その他									農水省ふる水基金全国担当者会議			

平成３０年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業計画(案)

１　地域活動支援事業

（１）実践活動地区（５地区、括弧は年次）

別海町別海地区（３）、七飯町七飯地区（３）、岩見沢市北村豊正地区（３）

根室市厚床地区（１）、上ノ国町上ノ国地区（１）

（２）住民意識醸成地区

２　研修事業

（１）指導員の委嘱

（２）全国研修（東京都）

（３）地域づくり研修会（９月札幌市）

（４）現地研修（道央　10 月 16 日～17 日）

（５）北海道ふるさと・水と土指導員会（１月）

（６）北海道ふるさと・水と土指導員会幹事会（５月 23 日、１月）

（７）指導員ブロック別ミーティング（４ブロック）

①　道東ブロック　　７月　オホーツク管内

②　道北ブロック　　８月　上川管内

③　道央ブロック　１１月

④　道南ブロック　１１月　檜山管内

（８）情報誌「里づくり」の発行　２回（７月、２月）

（９）web 版「里づくり」の配信　毎月

３　推進事業

（１）委員会の開催　３回（５月、１２月、３月）

（２）活動地区との意見交換

（３）ホームページの更新

①　指導員プロフィール

②　事業紹介、委員会記録及び活動実績等の情報

（４）啓発普及

「新・田舎人」（96～99 号）の配布

地域活動支援事業

平成２９年度事業実績・平成３０年度事業計画（案）

について

Ｈ２９年度活動実績

１　先進地視察

日　時：平成 29 年 6 月 1 日～2 日

場　所：北見市 ㈲香遊生活、クッカーたんの

参加者：指導員 3 名、役場職員、振興局職員

内　容：ハーブの栽培方法及び活用方法等について意見交換及び体験研修（ハーブティーブレンド）を行った。

ハーブやドライフラワーの直売所見学を行った。

２　ハーブ･ガーデン

日　時：平成 29 年 5 月～11 月

場　所：別海町役場付近の町有地

内　容：ハーブ畑を整備した。

（ナスタチウム、バジル、ローズマリー、パセリ、セージ、カモミール、タイム、オレガノ、ミント、レモンバーム）

３　ハーブ･キッチン

日　時：平成 30 年 3 月 5 日

場　所：別海町農漁村加工体験施設

参加者：酪農女性 5 名、役場職員、振興局職員

内　容：ハーブを使ったソーセージ作りを行った。

４　試供品配布

日　時：平成 29 年 12 月 7 日

場　所：別海町役場

内　容：ハーブティー・ハンバーグを作り、別海町女性農業士会の会合（農業者 41 名、関係機関 10 名参加）で配布した。

別記様式第2号

地域活動支援事業に係る予算要求書

事業実施年度	平成30年度			
総合振興局等名	根室振興局			
活動地区名	別海地区	活動団体名	チームNKB	
目的（ねらい）	項目（費用）	内容	金額（円）	積算根拠
親子イベント	使用料及び賃借料	ネットワーク作りの一環として、親子参加型イベントの開催。（2回） ▸会場使用料 ▸材料費	19,000	加工体験施設、公民館
	需用費		40,000	食材、材料など
	役務費		1,000	ゴミ袋など
		小　計	60,000	
ハーブ・キッチン	使用料及び賃借料	ハーブを活用した調理加工体験の開催。（1回） ▸会場使用料 ▸材料費（食材、その他）	10,000	加工体験施設
	需用費		19,000	食材など
	役務費		1,000	ゴミ袋など
		小　計	30,000	
ハーブ・ガーデン	需用費	ハーブ・ガーデンの整備。 ▸苗 ▸園芸資材	25,000	苗 7種類75株
	需用費		15,000	肥料、資材など
		小　計	40,000	
PRパンフレット	需用費	地区活動内容のPRパンフレットを作成し、周知を図る。	150,000	
		小　計	150,000	
合計			280,000	
			0	報償費
			0	旅費
			249,000	需用費
			2,000	役務費
			0	委託料
			29,000	使用料及び賃借料
費目内訳			280,000	

別記様式第4号

活 動 計 画

団体名	チームNKB	市町村名	別海町	地区名	別海地区
めざす姿	～ハーブのネットワークづくり～ 町内の酪農女性、特に道外出身の方は酪農業や家事に追われ、積極的な仲間づくりが進んでいない。また、町内の地域資源は乳製品に偏っており、農家個々が高付加価値商品を開発するには至っていない。このことから、新たな地域資源として、ハーブをテーマとした取り組みをすすめ、オール別海の女性の輪づくりを並行させながら、地域の活性化の糸口とする。				

活動の方向 No.	活動の内容	目標（数値・定性）	解決すべき課題
①	○酪農女性の仲間づくり 道外出身者の活動の場ということを視野に入れながら、酪農業を営む女性の活動母体（ネットワーク）づくりを進める	・定期的な交流会の開催（年2回）	・普段交流のない酪農女性の参加促進 ・魅力ある活動を継続することにより定期的な交流会の開催
②	○ネットワークの拡大 酪農女性を中心とした活動母体に、町内外の他団体（女性中心の団体を想定）を巻き込んでいく	・3年目には他団体との連携	・町内外の女性ネットワークの構築 ~~・特に関係が希薄な農業者と漁業者のつながり（ネットワーク）の構築~~
③	○ハーブなど新たな地域資源の発掘 寒冷地であり限られた地域資源に、新たな要素を生み出すよう、まずは冷涼地帯に適しているハーブを中心に、新たな地域資源を発掘していく	・各農家でハーブ栽培の普及	・栽培技術及び加工技術の習得
④	○別海の魅力発信 上記①～③の活動について、町内外を問わず広く発信していく	~~・機関紙の発行~~ ・PRパンフレット作成	・取組みの認知 ・参加者の拡大

3年間の活動プロセス	活動事項	関連No.	平成28年度 内容	平成28年度 予算額	平成28年度 年度目標	平成29年度 内容	平成29年度 予算額	平成29年度 年度目標	平成30年度 内容	平成30年度 予算額	平成30年度 年度目標	最終目標	適用事業
	仲間づくり	①	先進地視察	100千円	1回（鶴居村）	先進地視察	35 ~~296~~ 千円	1回（北見市 ~~道内~~）					ふるさと・水と土（地域活動支援事業）
		①②				~~親子イベント~~	~~51千円~~	~~1回/年~~	親子イベント	60 ~~200~~ 千円	2回/年		
		①②③							ハーブ・キッチン（調理加工体験）	30千円	1回/年		
	ハーブ栽培の取組み	③				~~栽培技術及び利活用講習会~~	~~120千円~~	~~1回/年~~					
		③	ハーブ・ガーデン（苗・肥料・ネット）	34千円	メイン1ヶ所	ハーブ・ガーデン（苗・肥料・資材）	31 ~~72~~ 千円	メイン1ヶ所	ハーブ・ガーデン（苗・肥料・資材）	40 ~~150~~ 千円	メイン1ヶ所		
		②③	ハーブ・キッチン（加工技術研修）	24千円	1回（別海町）	ハーブ・キッチン（調理加工体験）	25 ~~61~~ 千円	1 2回/年	~~ハーブ・キッチン（調理加工体験）~~	~~300千円~~	~~2回/年~~		
	情報発信	①④	農業士会での試供品配布		1回/年	農業士会~~、酪農女性のつどい~~での試供品配布		1 2回/年	農業士会、酪農女性のつどい等での試供品配布		2回/年		
		②③							~~品評会（JA、JF、商工）の開催~~	~~50千円~~	~~1回/年~~		
		②④							PRパンフレット作成	150千円	1回/年		
		②④							就農イベント・菊と緑への参加		1回/年		

関係者等	
別海町女性農業士会	事務局：別海町産業振興部農政課
別海酪農女性のつどい	事務局：別海町産業振興部農政課

別記様式第2号

地域活動支援事業に係る予算要求書（案）

事業実施年度	平成30年度			
総合振興局等名				
活動地区名	七飯	活動団体名	七飯の食を考える会	
目的（ねらい）	項目（費用）	内容	金額（円）	積算根拠
勉強会 「食育・食材を思う」及び「ななえ食：歴史」 （メンバーに対する意識醸成）	（報償費） （旅費） （需用費） （使用料）	親子調理体験4hr(1日目) 勉強会(10月) 2hr(2日目) 意見交換会2hr(2日目)	112,000	評論家　14,000円×8H
			113,000	JR往復・ホテル1泊　置戸⇔七飯
			65,000	親子料理体験食材等
			0	（町施設公用使用）
		小　計	290,000	
「ななえ食」 地域産地見学会 子供工場見学会 （1回/3箇所程度）	（使用料） （需用費）	地域勉強会 ・小学生	50,000	バス借上げ　50,000円×1回
			10,000	雑機材等10,000円
		小　計	60,000	
「ななえ食」食育活動取りまとめ本作成 1,000部 カラー20P	（委託料）	ななえ食の活動を地域住民に広報活動	1,000,000	デザイン・イラスト含む
		小　計	1,000,000	
「ななえ食」のパネル作成 A1～15部	（委託料）	ななえ食レシピ及び会の活動紹介	450,000	デザイン・イラスト含む
		小　計	450,000	
		小　計	0	
		小　計	0	
合計			1,800,000	
			112,000	報償費
			113,000	旅費
			75,000	需用費
				役務費
			1,450,000	委託料
			50,000	使用料及び賃借料
費目内訳			1,800,000	

別記様式第４号

活 動 計 画

団体名	七飯の食を考える会	市町村名	七飯町	地区名	七飯
めざす姿	◇子どもから大人まで 「ななえ食」を学ぶ (七飯町は西洋農業発祥の地であり農作物(大根、人参等根菜類及び長ネギ)の収穫も道南では上位を占め、又緑豊かな森と湖の大沼地域は酪農(肉牛)や水産、まさしく食の宝庫である。) ・未来を担う子ども達及び地域住民に、「ななえ食」を再認識してもらい、産地見学・学習体験等を通して、ふるさとである七飯町に愛着を持つ環境を整える。 ・「ななえ食」を活用した産地見学会(収穫体験)や料理の開発、加工品等により七飯町の魅力を町内外に発信する。				

活動の方向	NO	活動の内容	目標 (数値・定性)	解決すべき課題
	①	◇「ななえ食」~~の地域資源~~に関する取組み ・食材(農林水産物)の再発見！ ・地域住民と生産者(地域講師)の交流・勉強会	・地域活動勉強会の開催 ・生産者(地元講師)の学習会の開催	・子どもから大人まで「ななえ食」の歴史を知り食を知る企画促進。 ・地域内全体での地域講師の発掘。 ・異世代交流方法(地域講師と子ども達)
	②	◇~~「ななえ食」の体験塾(仮称)~~「美味しいななえ探検隊」(食育・調理加工・木育等)に関する取組み ・子ども参加型(地域モデル校:軍川小学校) ・地域住民参加型	・産地見学会・体験学習会及び加工工場見学会の開催	・提供者、ボランティアなど運営問題、指導整備が必要。 ・他校での取組みをする学校等の増加 ・地域内での産地見学場所の選定
	③	◇活動内容の地域への周知及び理解の促進	・会のメンバー増員 ・ボランティアスタッフ増加	-

３年間の活動プロセス	活動事項	関連NO	平成２８年度 内容	平成２８年度 予算額	平成２８年度 年度目標	平成２９年度 内容	平成２９年度 予算額	平成２９年度 年度目標	平成３０年度 内容	平成３０年度 予算額	平成３０年度 年度目標	最終目標	適用事業
	「ななえ食」に関する取組み	①	地域活動勉強会	8.6 ~~15~~ 万円	1回/年 ~~(11月)~~(3月)	地域活動勉強会	8.0 ~~9.6~~ ~~万円~~	1回/年 (1月)	地域活動勉強会と親子調理体験	29 ~~10~~ 万円	1回/年 (10月)	[ななえ食]の再認識及び、地元講師の発掘・登録する。	中山間ふるさと・水と土保全対策事業 (地域活動支援事業)
									「ななえ食」 地域の産地見学(1回/3ヶ所程度)	6 ~~5~~ 万円	1回/年 (9月)		
	「美味しいななえ探検隊」に関する取組み	②	「ななえ食」 子ども産地見学(2回/1ヶ所) ~~(1回/3ヶ所)~~	3.3 ~~10~~ 万円	2回/年 (6月、9月)	「ななえ食」 子ども一汁三菜(ご飯、汁物)調理体験(和食)	11.6 ~~16.6~~ 万円	1回/年 (10月)	~~「ななえ食」 子ども工場見学(1回/3ヶ所)~~	0 ~~5~~ 万円	~~1回/年~~ ~~(9月)~~	産地見学、体験学習、調理加工を実施することにより、地元の生産者との触れ合い通して地元の良さを再認識する。	
			「ななえ食」 子どもフルコース調理体験(洋食)	28 ~~25~~ 万円	1回/年 10月	「ななえ食」 子ども作付け～収穫～調理・加工	8.6 ~~24.6~~ 万円	3回/年 ~~1回/通年~~ 秋ﾚｼﾋﾟ含む	~~「ななえ食」の地元講師とりまとめパンフ作成~~	0 ~~25~~ 万円	~~3,000部カラー~~		
						「ななえ食」の料理講習会(ﾚｼﾋﾟ作成)会員を対象	17.3 ~~11.8~~ 万円	2回/年 (春・夏ﾚｼﾋﾟ)	「ななえ食」 食育活動とりまとめ本(冊子)作成	100 ~~120~~ 万円	1,000部20Pｶﾗｰ		
			~~「ななえ食」のレシピ作成~~	~~35~~ ~~万円~~	~~3,000部カラー~~				「ななえ食」のパネル作成	45 万円	15部(A1)		
			~~「ななえ食」のパネル作成~~	~~45~~ ~~万円~~	~~15部(A1)~~				~~「ななえ食」の体験地図産地パンフ作成~~	0 ~~30~~ 万円	~~3,000部カラー~~		
			「七飯の食を考える会」エプロン作成	13.1 万円									
	活動内容の地域への	③				「ななえ食」のレシピ及び会の活動紹介パンフ作成	36.0 ~~35~~ 万円	3、000部カラー				会の活動内容を地域住民に理解してもらうこと及び「ななえ食」の魅力をPRすること。	

関係者等	
七飯の食を考える会	代表 田中 いずみ、対馬 明子、種畑 智佐子、山田 あゆみ、吉田 静子、宮後 英子、藤吉 愛、和泉 詩織、牧野 成美
七飯町	農林水産課 TEL 0138-65-2511 FAX 0138-66-2054
七飯町立軍川小学校	TEL 0138-67-2333 FAX 0138-67-3591

＊「ななえ食」とは、七飯町で生産・加工されたすべての食材(農林畜水産物)

別記様式第４号

活 動 計 画

団体名	豊正FAM協議会	市町村名	岩見沢市	地区名	岩見沢市北村豊正
めざす姿	～　人が訪れる地域づくりを通して、老後も元気に暮らす　～ 近年、高齢化に伴う離農や店舗の撤退などで過疎化が進行しつつある中、生産者組織「北の大地マルシェ」（空き店舗を活用した直売事業と落花生の加工事業を推進）を設立し、他地域から多くの人に訪れてもらえることで地域の活性化を図る。 また、「北の大地マルシェ」事業と並行し、従前から実施している交流事業（フットパスイベントや落花生まつり）の一層の充実を図り、更なる北村豊正ファンを獲得し、他地域や都市との交流、異業種交流、福祉団体との連携など複合的な活動を進めていく。				

活動の方向	NO	活動の内容	目標（数値・定性）	解決すべき課題
	①	北の大地マルシェ直売事業 ・6月上旬から11月上旬まで、JA空き店舗を借用した直売所運営 ・地域住民が集う場所としてのカフェの開業	＜初年度＞ 来場者　期間中900人(予定) 売上　　年間750千円(予定) ＜29以降＞ 前年度比10％増	・効率的な直売所運営が図れるよう経営ノウハウの習得 ・都市部に対するPRの実施等、効果的な販促活動 ・構成員の積極的な参画と出荷者の増加による品揃えの確保 ・カフェメニューの開発
	②	北の大地マルシェ加工事業 ・「塩ゆで落花生」加工販売 ・地場農産物を活かした加工品の研究	＜塩ゆで落花生加工販売＞ 加工品の品質の均一化 ＜加工品の研究＞ 加工品の開発　1品	＜塩ゆで落花生加工販売＞ ・加工技術の習得、向上と委託加工受入体制の確立 ＜加工品の研究＞ ・加工技術の習得、向上 ・加工品開発に係るパッケージデザイン等の情報収集
	③	交流事業　～　フットパス交流会・落花生まつり ・7月上旬にフットパス交流会、10月上旬に落花生まつりのイベントを開催し、地場農産物の料理を楽しみながら生産者と消費者や異業種と交流や福祉団体との連携を図る。 ・活動を集落全体に波及させ、多くの住民参加を促す。	運営方法等の具体的な取組手法の定着及び集落の様々な層の住民の参加	・参加対象を広げたいが参加者の参加しやすい体制が整備されていない。（バスの確保等） ・継続した活動につなげたい。 ・集落の維持・活性化に向けた効果を発揮させたい。

3年間の活動プロセス	活動事項	関連NO	平成28年度 内容	予算額	年度目標	平成29年度 内容	予算額	年度目標	平成30年度 内容	予算額	年度目標	最終目標	適用事業
	北の大地マルシェ直売事業	①② ①	先進地へのバス視察研修	120	1回/年開催	先進地へのバス視察研修	100	1回/年開催	先進地へのバス視察研修	120	1回/年開催	地域の直売所として活動の安定を図る	
		①	販売促進に係る資材（エプロン・のぼり等）費	160	エプロン15枚・のぼり10本・横幕1枚	販売促進に係る資材（のぼり等）費	508	のぼり10本・横幕2枚等	販売促進に係る資材（のぼり等）費	120	のぼり10本・横幕2枚等		
		①	マルシェPRポスター・チラシ作成	120	100部作成 1,000部作成	マルシェPRポスター・チラシ作成	260	130部作成 5,000部作成	マルシェPRポスター・チラシ作成	120	100部作成 1,000部作成		
	北の大地マルシェ加工事業	①② ①② ①②③	加工販売に係るマーケティング研修	20	1回/年開催	加工・地場農産物を用いた料理講習会	205	2回/年開催	加工販売に係るマーケティング研修	50	1回/年開催	地場農産物のPRにつなげる	
		①②	加工技術向上に係る研修	70	1回/年開催	販売に関する実技研修会	171	2回/年開催	加工技術向上に係る研修	93	1回/年開催		
									地場農産物レシピ集作成	140	500部作成		
	交流事業	③	コースの整備	110	案内看板の設置							地域のイベントとして定着させる	
		③	フットパス交流推進に係る研修	40	1回/年開催	集落づくり・交流に関する勉強会	54	1回/年開催	地域づくりに係る研修	40	1回/年開催		
		③	フットパス・落花生まつりPRポスター・チラシ作成	160	100部作成 2,000部作成	フットパス・落花生まつりチラシ作成	100	各500部作成	フットパス・落花生まつりPRポスター・チラシ作成	160	100部作成 2,000部作成		

関係者等			
	岩見沢市農政部農業基盤整備課	主事　山崎　拓也	（連絡先　0126-23-4111）
	JAいわみざわ農業振興部門	次長　児玉　卓也	（連絡先　0126-22-6924）
	宮島沼水鳥・湿地センター	主任　牛山　克己	（連絡先　0126-66-5066）
	北海土地改良区水土里ネット推進室	室長　高柳　広幹	（連絡先　0126-22-2400）
	空知農業改良普及センター	専門普及指導員　佐久間　裕美子	（連絡先　0126-23-2900）

別記様式第１号

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業の地域活動支援事業に係る実施要望調書

振　興　局　等　名	檜山振興局	市 町 村 名	上ノ国町
活　動　地　区　名	上ノ国	活 動 団 体 名	檜山南部サヤエンドウ生産組合企画班
市町村担当者所属・氏名	上ノ国町農林課　笠谷　将人	関係指導員名	吉見　俊彦

活動地区の現状及び活動団体の活動状況（実績）

上ノ国町は、渡島半島の西南、檜山振興局管内の最南端に位置しており、東は渡島山地、西は日本海に面している。 町面積の約91％が山林で、北部に天の川、南部に石崎川が流れ、日本海に注ぎこんでいる。気候は対馬暖流の影響を受け、四季の変化が穏やかで寒暖の差が小さい。日照時間は割合少なく、雨量は6月から10月にかけて多くなる。風は強く、5月、6月はこの地方特有のヤマセ（南東風）、冬季間は北西の季節風が吹き荒れる。初雪は11月中旬、12月中旬には根雪となる。

農家数は112戸で、主業農家の割合が約35％（全道平均:約68％）と低い(2015農林業センサス)。農業就農人口に占める65歳以上の割合は66％と高齢化が進んでいる。水稲を中心に畑作との土地利用型、さやえんどう（露地）・アスパラガス（ハウス）・にら（露地）などの高収益作物との組合せの小面積高収益型に二分される。

昭和56年に絹さやえんどうの生産出荷が始まった。平成29年現在の生産規模は、農家戸数38戸、栽培面積総計は約10㌶である。

絹さやえんどう産地として30年以上の実績がある。全道屈指の規模・生産量を誇り、品質もよく市場関係者から高い評価を得ている。しかし、町内での流通がほとんどなく、絹さや産地ならではの料理や加工品もない。名産品でありながら、地元に「食」として根付いていないのが現状である。また、産地としては、高齢化、労働負担等により規模縮小傾向にある。産地を維持して、地産地消を促進し、「食」を軸とした地域振興を実現するため、絹さやえんどうを軸とした生産者と地域を結ぶ取り組みが生産者、関係機関より要望されるようになった。

取り組みは、平成28年に生産組合、JA、役場、普及センターと「規格外品さやえんどう利用実態調査」から始まった。この調査により、絹さやえんどうを使った多様な家庭料理があることが確認され、平成29年に「上ノ国絹さや活用料理集」を作成した。その後、上ノ国町や普及センターのホームページ、町広報誌、雑誌により料理集を紹介し、町内外に周知を図った。また、地元料理店と協力し、地元向けの「絹さやえんどう料理」を試作した。食育と絹さやえんどうの需要喚起を兼ねてのイベントも実施した。

活動地区及び活動団体の活動における課題

取り組みを始め2年目を迎えたが、町民に対する周知が不十分であり、上ノ国町における絹さやえんどうの地産地消は進んでいない。また、地域内での需要量が見通せず、地元販売体制が構築できていない。

地域の活性化に向けた展開方向

「絹さやえんどう」産地の維持、地産地消による地域活性化のため、下記の活動を計画している。

1. 町民向けのイベント、食育活動等を通して、上ノ国町が「絹さやえんどう産地」であることを周知し、需要を喚起する。
2. 地元料理店との連携により、「絹さやえんどう料理」を試作検討し、地域の定番料理として定着させる。
3. 生産者に対して、「絹さやえんどう」が地域の食文化、経済にとって必要不可欠な作物であることを理解してもらい、生産意欲の向上を図る。

別記様式第１号の２

活動地区（活動団体）に係る概要調書　　（平成３０年２月現在）

活動地区名	上ノ国	活動団体名	桧山南部サヤエンドウ生産組合企画班

地区（団体）の主な活動歴

（平成２８年５月）発足

平成２８年度

１．絹さやえんどう高付加価値化活動の開始に向けた体制整備

【協議】５月　取組の検討

【報告】11月、12月、３月　役員会等で活動報告

２．絹さやえんどう活用法に関する情報収集・整理

【協議】６月　調査内容の検討

【調査】７～11月　活用事例現地調査

【協議】１～２月　活用事例調査に基づくレシピ集の検討

平成２９年度

１．規格外品を活用した付加価値品の検討・試作

【協議】４、５月　レシピ集編集に向けての検討

【編集】６～８月　レシピ集編集。合わせてレシピに基づく試作

【広報】８月　普及センター及び町ホームページ、町広報誌でレシピ集の紹介。道の駅直売所にレシピ設置

１０月　振興局封筒裏の地元紹介欄で、レシピ集等を紹介

１１月、１２月　雑誌「農家の友」にレシピを掲載

【報告】１１月、１２月　役員会等で活動報告

２．地元業者との意見・情報交換の実施

【協議】７月　道の駅担当者と協議

【試作】９月、１０月　地元飲食店を連携し、絹さやえんどう創作料理の試作、検討

２月　地元イベント「じょぐら祭」で絹さやえんどうを使った太巻き「龍神巻き」を参加者と試作

代表者の活動歴等

桧山南部サヤエンドウ生産組合　組合長　：　平成８年～　　（継続中）

上ノ国町農業再生協議会　副会長　：　平成16年～　　（継続中）

上ノ国町農業委員会　会長　：　平成20年～平成29年

上ノ国町耕作放棄地対策協議会　会長　：　平成22年～平成29年

地区（団体）の構成員に関わる事項

氏名	年齢	性別	職業	特記事項
大口　勇	80歳	男	農業	桧山南部サヤエンドウ生産組合　組合長
山口　公仁	39歳	男	農業	桧山南部サヤエンドウ生産組合　副組合長 北海道農業士
齋藤　寿	31歳	男	農業	桧山南部サヤエンドウ生産組合　理事 北海道農業士
片石　明美	57歳	女	農業	桧山南部サヤエンドウ生産組合　理事
片石　唯乃	30歳	女	農業	桧山南部サヤエンドウ生産組合　組合員 北海道農業士
丸山　由美子	68歳	女	農業	桧山南部サヤエンドウ生産組合　組合員

別記様式第２号

地域活動支援事業に係る予算要求書

事業実施年度	平成30年度			
総合振興局等名	檜山振興局			
活動地区名	上ノ国	活動団体名	キヌサヤエンドウ生産組合企画班	
目的（ねらい）	項目（費目）	内容	金額	積算根拠
町民向けのイベント、食育活動	需要費	絹さやえんどう料理教室の開催	20,000	絹さや10kg×2000円
			40,000	海苔、具材等
			7,000	米20kg
			5,500	資料代（紙代、印刷代）
		小計	72,500	
「絹さやえんどう料理」の開発、定着	需要費	地元料理人との連携による「絹さやえんどう料理」試作検討	100,000	絹さや5kg×2000円×10軒
			200,000	試作代、検討会代×10軒
			5,500	資料代（紙代、印刷代）
				※検討会は１軒毎に開催
		小計	305,500	
「絹さやえんどう料理」の開発、定着	需要費	「絹さやえんどう料理」週間開催	5,500	資料代（紙代、印刷代）
		小計	5,500	
「絹さやえんどう」地域内販売体制の構築	需要費	「絹さやえんどう」地域内販売の試行	30,000	販売協力費（5000円×３日×２軒）
			5,500	資料代（紙代、印刷代）
		小計	35,500	
生産者に対する活動の理解、参加	需要費	「絹さやえんどう」試作品の検討（38周年記念）	20,000	絹さや10kg×2000円
			200,000	試作品代4000円×50名
			5,500	資料代（紙代、印刷代）
		小計	225,500	
合計			644,500	
費目計		08_報償費		
		09_旅費		
		11_需用費	644,500	
		12_役務費		
		13_委託料		
		14_使用料及び貸借料		
			644,500	

別記様式第４号

活動計画

団 体 名	キヌサヤエンドウ生産組合企画班	市町村名	上ノ国町	地 区 名	上ノ国
め ざ す 姿	・「絹さやえんどう」を活用して、上ノ国町の「食」の魅力を地域内外に発信し、また地産地消を促進することで地域内経済を活発にして地域振興、産地の維持を図る。				

	No	活動の内容	目標（数値・定性）	解決すべき課題
活動の方向	①	町民の「絹さやえんどう」に対する関心を高める	・イベントの開催 ・食育の推進 ・「絹さやえんどう」に関係した情報の発信	・活動に必要な絹さやえんどうの確保。 ・絹さやえんどう消費の行事化。 ・町民の「絹さやえんどう」 に対する十分な理解。
	②	地元料理店と連携し「絹さや料理」を開発、定着を図る	・「絹さやえんどう料理」の開発 ・「絹さやえんどう料理」の定番メニュー化	・試作、定番メニュー化に必要な絹さやえんどうの確保。 ・地元料理店との「絹さやえんどう料理」の開発、郷土料理化。 ・「絹さやえんどう料理」を町民に対し提供する時期の検討。
	③	「絹さやえんどう」地域内流通体制を構築する	・「絹さやえんどう」販売の試行	・地区内販売用「絹さやえんどう」の確保、集荷体制。 ・販売場所の検討。 ・販売単価の設定。
	④	「絹さやえんどう」農家の生産意欲を向上する	・講習会、試食会の開催	・生産者に対し「絹さやえんどう」による地域食文化の充実、地産地消による地域循環経済についての理解。

3年間の活動プロセス	活動事項	関連No	平成30年度			平成31年度			平成32年度			最終目標	適用事業
			内容	予算額	年度目標	内容	予算額	年度目標	内容	予算額	年度目標		
	町民向けのイベント、食育活動	①	絹さやえんどう料理教室	千円 72.5	1回／年 (8-9月)	絹さやえんどう料理教室	千円 100	1回／年 (8-9月)	絹さやえんどう料理教室	千円 100	1回／年 (8-9月)	上ノ国町が「絹さやえんどう産地」であることの理解、「絹さやえんどう」の固定需要確保	中山間ふるさと・水と土保全対策事業（地域活動支援事業）
						絹さやえんどう料理コンテス	100	1回／年 (8-9月)	絹さやえんどう料理コンテス	100	1回／年 (8-9月)		
	「絹さやえんどう料理」の開発、定着	②	地元料理人との連携による「絹さやえんどう料理」試作検討	305.5	3回／年 (8-9月)							「絹さやえんどう料理」の郷土料理化	
			「絹さやえんどう料理」週間開催	5.5	1回／年 (8-9月)	「絹さやえんどう料理」週間開催	100	1回／年 (8-9月)	「絹さやえんどう料理」週間開催	100	1回／年 (8-9月)		
	「絹さやえんどう」地域内販売体制の構築	③	「絹さやえんどう」地域内販売の試行	35.5	1回／年 (8-9月)	「絹さやえんどう」地域内販売の試行	100	1回／年 (8-9月)	「絹さやえんどう」地域内販売の試行	100	1回／年 (8-9月)	「絹さやえんどう」販売体制の確立	
	生産者に対する活動の理解、参加	④	「絹さやえんどう」試作品の検討	225.5	1回／年 (3月)							・会の活動を町民に理解してもらう。 ・メンバーの増員	

関係者等		
	キヌサヤエンドウ生産組合企画班	代表　大口　勇　　連絡先
	上ノ国町	農林課　主幹　笠谷　将人　連絡先　0139－55－2311
	JA新函館厚沢部基幹支店	生産施設課調査役　出口　秀樹
	檜山農業改良普及センター	広域主査（高付加価値化）　深尾　伸一　（作物（稲））

平成２９年１２月２０日
サヤエンドウ生産組合反省会資料
作成：檜山農業改良普及センター

規格外品絹さやえんどう利活用の取り組みについて

1. 本年度の取り組みと成果について

皆さんの力でいろいろな取り組みができました！

「上ノ国絹さや活用料理集」完成

町広報で紹介

振興局封筒裏で紹介

美里さんで料理試作

イタメシ屋チャオ！さんで料理試作

町、普及センターのHPで紹介

「農家の友　11,12月号」で紹介

【その他】江差町「パレス」で絹さや料理試作、絹さやパウダーを使った「絹さやシフォン」

2. 来年度の主な取り組みについて（案）

勢いがあります！皆さんの力を結集して、ますます盛り上げていきましょう！

①上ノ国絹さや「３８（さや）周年」記念

来年度は、上ノ国町で生産・出荷が始まって38年目という「３８（さや）」の年です。この年を逃す手はありません。

【案】「絹さや料理」をみんなで食べながら、これまでの努力を思い、これからのことを考える日とします。時期的には講習会の後が良いのでは？　なお、「絹さや料理」は 地元料理店に協力をお願いします。

②「（仮称）絹さやを食べる日」を作りましょう！

「絹さや料理」を家庭料理、郷土料理として定着させたいと思います。

【案】絹さやの海苔巻きである「龍神巻き」を毎年食べる日として、生産者組合で「（仮称）絹さやを食べる日」を決めます。また、この日に規格外品を販売すると、より地域に定着する力が増すと思います。更に「定着力」が増すでしょう。時期的には８月下旬から９月上旬が良いと考えています。

※来年２月17日「じょぐら祭」で食育活動の一環として、子どもとお母さんに「龍神巻き」を作ってもらいます。
※ この取り組みは、「恵方巻き」をイメージしています。

③地元料理人との連携活動

地元の人たちに「絹さやえんどう」＝「上ノ国」という認識を持ってもらうため、料理人との連携が不可欠です。

【案】協力してくれる料理店に、絹さや料理を出してもらう取り組みですが、時期的には「（仮称）絹さやを食べる日」のあたりが良いと思います。

重要　①取り組み進めるための予算確保
②生産者皆さんから、規格外品を出して頂く

みんなの力を合わせ、上ノ国を「絹さやえんどう」で盛り上げましょう!